

三和生薬株式会社様に対するシンジケート方式の 「とうほうソーシャルファイナンス」の組成について

東邦銀行（頭取 佐藤 稔）は、三和生薬株式会社様（本社：栃木県宇都宮市、代表取締役 村山 光雄以下、「当社」）に対し、シンジケート方式の「とうほうソーシャルファイナンス（ローン型）」（※ 以下、「とうほう SF」）を組成しましたのでお知らせいたします。

当行では、2030年までに合計1.5兆円のサステナブルファイナンスを実行することを目標として掲げており、今後も多様な金融手法を活用しながら、お客さまのサステナビリティ経営をサポートしてまいります。

（※）社会的効果のあるソーシャルプロジェクトを資金用途とする商品です。「とうほう SF」は、株式会社格付投資情報センターより、「ソーシャルローン原則」の趣旨に沿ったフレームワークである旨のセカンドオピニオンを取得しております。

記

1. 三和生薬株式会社様の概要

所在地	栃木県宇都宮市平出工業団地6番地1
代表者	代表取締役 村山 光雄
設立	1962年5月
事業内容	医薬品製造業

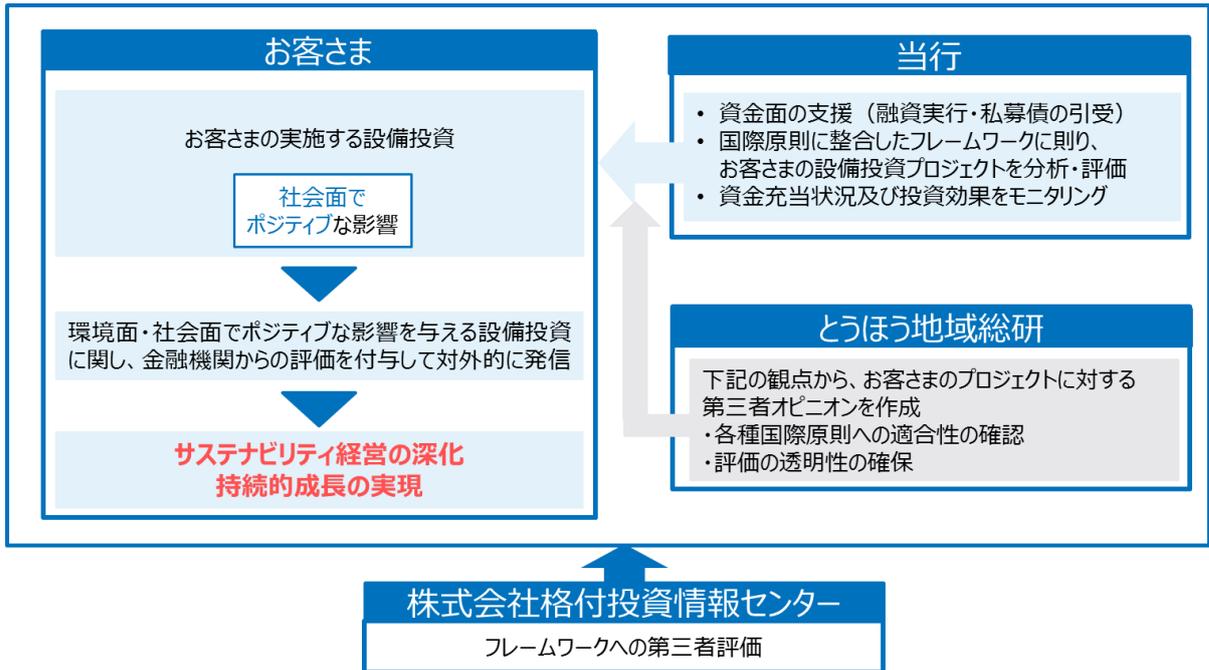
当社は、「古くから伝承された優れたたくすり（漢方薬）を通して、病に悩む人達の手助けとなる環境づくりで社会に貢献すること」を企業理念とし、登録品種のトリカブト「サンワおくかぶと1号」を主原料とする加工ブシ末やアコニンサン錠等の医療用漢方製剤を製造しています。

2. 本ファイナンス概要

契約締結日	2025年3月21日（金）
融資形態	シンジケート方式とうほう SF（コミットメント期間付タームローン）
組成金額	12億円
アレンジャー（主幹事）	当行
エージェント	当行
参加金融機関	当行、群馬銀行、みずほ銀行、山形銀行、常陽銀行
資金用途	製剤工場の新築および生産設備の取得
第三者意見	一般財団法人とうほう地域総合研究所

本資金は、当社による医薬品製剤工場の新築および生産設備の取得に充当されます。当社は、本件設備投資を通して、医薬品メーカーとしての「医療用漢方製剤の安定供給」という社会的使命を果たすべく生産体制を強化されるものであり、当行は「とうほう SF」を通じ、当社の取組みをご支援するものです。

3. とうほう SF のスキーム図



4. 関連するSDGs



東邦銀行グループでは、『サステナビリティ宣言』を制定し、グループ全体で地域経済の活性化や社会的課題の解決に向けた取組みを通して“地域社会に貢献する会社へ”を目指しています。

以上

東邦銀行



三和生薬株式会社 とうほうソーシャルファイナンス

発行日：2025年3月21日

発行者：一般財団法人とうほう地域総合研究所

一般財団法人とうほう地域総合研究所（以下、「とうほう地域総合研究所」）は、貸付人である株式会社東邦銀行（以下、「東邦銀行」）が三和生薬株式会社（以下、「同社」）に実施するとうほうソーシャルファイナンス（ローン型）について、「ソーシャルローン原則」に整合していることを確認した。以下にその評価結果を報告する。とうほうソーシャルファイナンス（ローン型）はアレンジャーを東邦銀行とするシンジケートローンで実行される。

■ オピニオン概要

（１）調達資金の用途

対象事業の直接的な目的は、同社の「加工ブシ末」を配合した医療用漢方製剤等を生産するための製剤工場の建設である。事業区分は「必要不可欠なサービスへのアクセス」に該当し、対象となる人々は患者、医療従事者を含む「一般市民」である。

漢方製剤等は、科学技術の進展による基礎及び臨床での科学的根拠の解明が進むに従い、がん支持療法や高齢者医療等、新たな領域においても重要な役割を担うようになってきている。しかしながら、天然物由来の医薬品という特性から多くの課題もあり、具体的には、原料生薬の安定確保、最終製品までの品質確保、漢方製剤等の安定供給等があり、国民医療において漢方製剤等が持続的に貢献するためには、課題解決に向けた取り組みが必要である。

本プロジェクトを通して、同社の高品質な「加工ブシ末」を配合した医療用漢方製剤が安定供給されることは、漢方薬を必要とする多くの患者にとって重要な課題の解決と言える。

本プロジェクトの遂行に関し、建設前のリスク検討を行った結果、特別なリスクは存在しない。既存製剤工場のこれまでの製造過程においても環境面・社会面にてネガティブな影響は発生していないため、本製剤工場の建設後においても新たなネガティブな影響は発生せず、本プロジェクトはポジティブな成果を生み出すと評価した。

（２）プロジェクトの評価と選定のプロセス

同社の企業理念は、「古から伝承された優れたくすり（漢方薬）を通して、病に悩む人達の手助けとなる環境づくりで社会に貢献すること」である。本プロジェクトは企業理念に合致したものであり、代表取締役の承認を得て意思決定されている。

(3) 調達資金の管理

調達資金は、普通預金に入金され、支払は請求書等のエビデンスを確認したうえで払い、全ての調達資金が充当されるまでアレンジャーである東邦銀行及びシンジケートローン参加行とともに充当状況を管理する。

(4) レポートニング

調達資金が本プロジェクトに充当されるまでの間、年に1回の頻度で資金の使用状況、プロジェクトの最新状況が確認できる資料をアレンジャーである東邦銀行に開示する。東邦銀行はシンジケートローン参加行に開示情報を報告する。

以 上

1. 借入人の概要

(1) 企業概要

企 業 名	三和生薬株式会社
本社所在地	栃木県宇都宮市平出工業団地 6 番地 1
設 立	1962 年 5 月
資 本 金	60,566 千円
売 上 高	946 百万円 (2024 年 3 月期)
従 業 員 数	64 人 (2024 年 3 月期)
事 業 内 容	医薬品の製造および販売 健康食品の製造および販売
営 業 所	東京営業所
登 録 ・ 免 許	医薬品製造業

(2) 沿革

1962 年	同社設立 村山慶吉氏代表取締役就任
1963 年	医薬品製造業許可取得「加工ブシ末」製造承認書取得
1963 年	「加工ブシ末」製造特許取得
1972 年	工場増築
1981 年	「加工ブシ末」他医療用漢方製剤 23 品目薬価基準収載
1984 年	医療用漢方製剤「麻黄附子細辛湯」他 11 品目薬価基準収載
1988 年	トリカブト品質改良にて「サンワおくかぶと 1 号」の名称で品種登録
2018 年	村山光雄氏 代表取締役就任

【本社、工場】



(出所：同社ホームページ)

(3) 事業概要

同社は創業以来、附子（ブシ）にこだわった医薬品製造を営んでいる。1963年に日本で初めて、強い毒性があるトリカブトを減毒し「加工ブシ末」（医薬品）とする製法特許を取得した。これにより、その毒性を心配することのない「加工ブシ末」の安定供給が可能になり、飛躍的に使い勝手が良くなった。漢方薬にとってブシは欠かすことの出来ない重要生薬であるだけに、多くの症状に役立っている。

また、同社の特徴として、原料であるトリカブトの栽培から製品までの一貫した生産体制が確立されていることが挙げられる。ブシの成分含量のバラつきを少なくし、品質の安定を図るため、1962年から栽培条件の整った北海道虻田（あぶた）郡に専用農場を設け、ブシの原植物であるトリカブトの品種改良と栽培の研究を先駆的に進めてきた。その成果として、従来のものよりも含有成分が高く、収量が多い「サンワおくかぶと1号」が1988年12月に品種登録された。これにより成分含量の安定した品質の原料を供給できるようになり、原料から製品までの一貫した生産体制が確立された。また、収穫された複数年のブシを混合して製造することによって、成分含量のバラつきを最小限に抑える工夫をするなど、高品質な医薬品づくりに取り組んでいる。

【用語の解説】

附子（ブシ）：キンボウゲ科トリカブト属植物の塊根から得られる生薬。附子は中国では古くから医薬として登場し、虚寒症（抵抗力がなく弱って、体が冷えている状態）の患者の衰えた新陳代謝を改善し、疼痛、冷え、麻痺、弛緩などの諸症状の改善に用いられる重要な薬物。

加工ブシ末：附子を一定条件下で加圧加熱処理を施して附子の毒性を減じ、その有益な作用を保持した製剤。

【製造工程、製品等】



（出所：同社ホームページ）



(4) 企業理念

同社の事業の根幹となる、企業理念は下記の通り。

< 企業理念 >

古くから伝承された優れたくすり(漢方薬)を通して、病に悩む人達の手助けとなる環境づくりで
社会に貢献すること

2. 調達資金の使途

評価対象の「調達資金の使途」は以下の観点から、ソーシャルローン原則に整合している。

(1) 対象プロジェクト

ソーシャルファイナンスにて調達される資金は製剤工場（以下、「本製剤工場」、同社の敷地内に建設予定）を建設するプロジェクト（以下、「本プロジェクト」）の資金に全額充当される。

事業区分は、「必要不可欠なサービスへのアクセス」に該当し、対象となる人々は患者、医療従事者を含む「一般市民」である。

なお、資金調達の使途については、貸付人に対して事前に説明がなされている。

(2) 社会の課題認識と社会改善効果

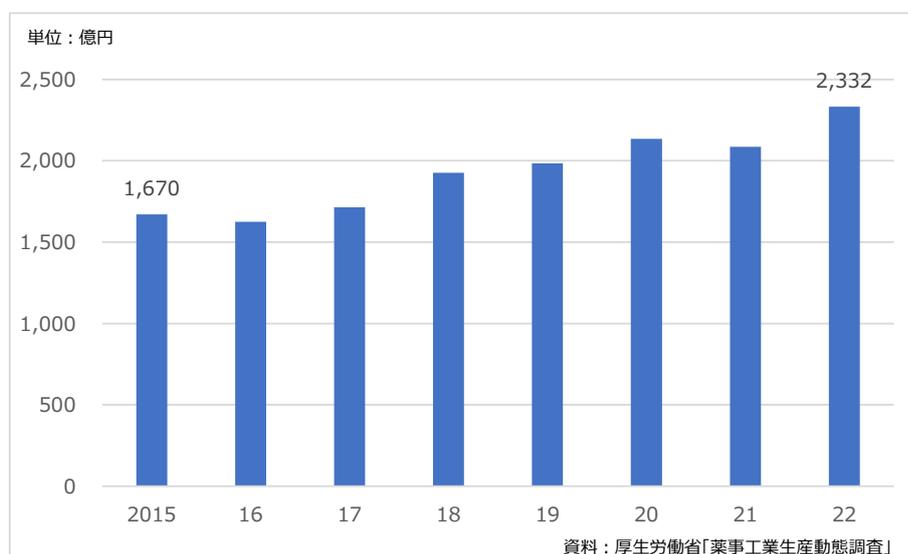
A. 高品質な医薬品を安定的に提供

本プロジェクトを通して、医療用漢方製剤の持続的安定供給が見込まれる。直接的には高品質な「加工ブシ末」が含まれる医療用漢方製剤の安定供給がなされることや漢方薬を必要とする多くの患者にとって体質改善や QOL（クオリティ オブ ライフ）が向上するとともに、健康寿命を延ばす等の成果がある。間接的な便益として、主に医療提供側にとって医療事故低減といった成果がある。

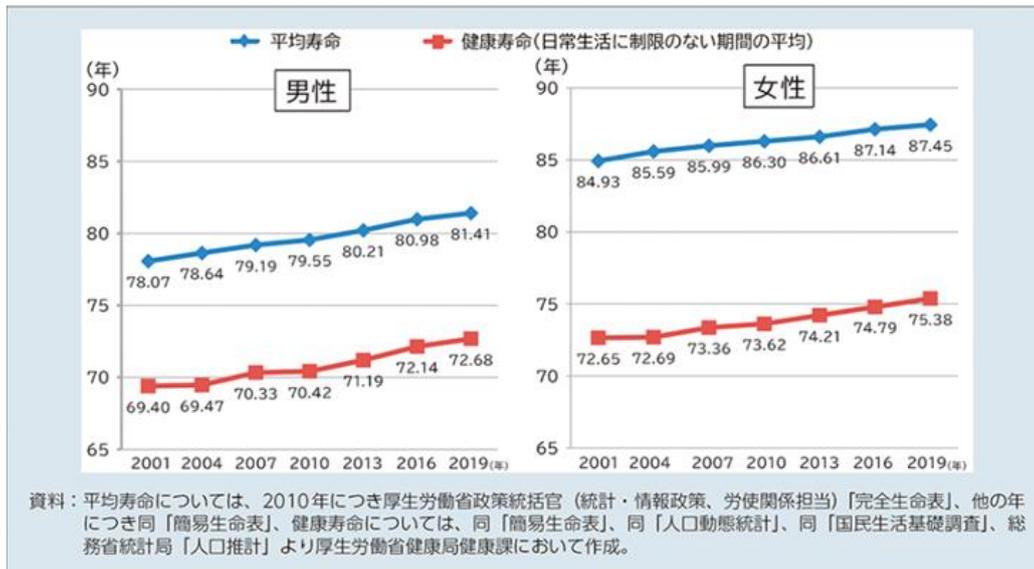
漢方製剤等は、科学技術の進展による基礎及び臨床での科学的根拠の解明が進むに従い、がん支持療法や高齢者医療等、新たな領域においても重要な役割を担うようになっていく。漢方製剤等の生産金額も増加しており、「安定的供給の確保」が社会課題としてあげられている。医薬品の安定供給体制が崩れると、医療機関や薬局で必要な医薬品が十分供給されず、患者への処方や治療に影響を及ぼす可能性がある。

一方で、医薬品製造業者は原料や製造コストの増加で収益面に影響を受けており、同社の本プロジェクトによる持続可能な生産体制を構築することは、供給責任の観点からも重要な取り組みである。

漢方製剤等の生産金額推移



平均寿命と健康寿命の推移



(3) 環境面・社会面におけるネガティブな影響への配慮

本プロジェクトの遂行に関し、同社にて建設前のリスク検討を適切に行った結果、特別なリスクは存在しないことを確認している。本製剤工場の建設にかかり、建物の建設に関する一般的な調査や手続きは全て適切に対応しており、アスベストが含まれる材料等、有害な物質の使用無いことを確認している。

また、既存の製剤工場における製造の中で、環境面・社会面にてネガティブな影響は発生しておらず、本製剤工場建設後においても、騒音、排煙、匂いなど外部への影響がほとんどないクリーンな工場である、環境面で特段の問題は生じないと見られる。

(4) SDGs・SDGs アクションプランとの整合

SDGs への貢献としての観点では、「すべての人が、お金の心配をすることなく基礎的な保健サービスを受け、値段が安く、かつ質の高い薬を手に入れ、予防接種を受けられるようにする（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）」に貢献すると考えられる。

【SDGs の目標】

SDGs の目標	ターゲット
	3.8 すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。

日本政府のSDGsの達成へ向けた「SDGsアクションプラン2023」に示された①～⑧の優先課題に関して、本プロジェクトが特に以下の課題に貢献すると考えられる。

優先課題
②健康・長寿の達成
⑦平和と安全・安心社会の実現

3. プロジェクトの評価と選定のプロセス

評価対象の「プロジェクトの評価と選定のプロセス」は以下の観点から、ソーシャルローン原則に整合している。

(1) 包括的な目標、戦略等への組み込み

既に述べた通り、同社は「古くから伝承された優れたたくすり（漢方薬）を通して、病に悩む人達の手助けとなる環境づくりで社会に貢献すること」を企業理念として掲げており、企業活動を通じて、社会課題の解決に取り組むことを掲げている。

医薬品製造業許可を取得し、GMP 遵守をマネジメントに組み入れることで、さらに品質の高かつ環境を意識した企業活動を行っている。

本プロジェクトは本企業理念の考え方に合致した投資となっている。

(2) プロジェクトの評価・選定の判断基準

本プロジェクトの評価・選定においては、企業理念に合致したものであり、「医療用漢方製剤の持続的な安定供給」の社会問題解決に資することを考慮した。

また、本プロジェクトの施工段階や運用段階において、潜在的な環境・社会へのリスクは小さいことも考慮した。

(3) プロジェクトの評価・選定の判断を行う際のプロセス

本プロジェクトについては、上記の基準を中心に、プロジェクトの評価・選定を実施し、代表取締役の承認を得て意思決定した。

4. 資金調達管理

評価対象の「資金調達の管理」は以下の観点から、ソーシャルローン原則に整合している。

調達資金は、同社及び東邦銀行をエージェントとするシンジケートローン参加行との間で締結されたシンジケートローン契約書にて、対象となるソーシャルプロジェクトとの紐付き、請求書等のエビデンスや支払先情報を確認した上で、東邦銀行及びシンジケートローン参加行とともに資金の充当状況を管理する。

5. レポートニング

評価対象の「レポートニング」は以下の観点から、ソーシャルローン原則等に整合している。

調達資金が本プロジェクトに充当されるまでの間、年に1回の頻度で資金の使用状況、プロジェクトの最新状況が確認できる資料をアレンジャーである東邦銀行に開示する。東邦銀行はシンジケートローン参加行に開示情報を報告する。

以 上



一般財団法人とうほう地域総合研究所 組織概要

名 称 : 一般財団法人とうほう地域総合研究所

代 表 者 : 理事長 矢吹 光一

所 在 地 : 〒960-8041
福島県福島市大町4番4号 東邦スクエアビル 3階

業 務 内 容 : 調査研究業務、コンサルティング業務、出版業務、その他事業

電 話 番 号 : 024-523-3171

F A X : 024-522-5663

設 立 : 1982年7月1日

留意事項

1. とうほう地域総合研究所の第三者意見について

本文書については貸付人が、借入人に対して実施するとうほうソーシャルファイナンスについて、アジア太平洋ローン・マーケット・アソシエーション（APLMA）、ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）、ローン・シンジケーション&トレーディング・アソシエーション（LSTA）「ソーシャルローン原則」への整合性、準拠性に対する第三者意見を述べたものです。

その内容は現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

とうほう地域総合研究所は当文書のあらゆる使用から生じる直接的、間接的損失や派生的損害については、一切責任を負いません。

2. 東邦銀行との関係、独立性

とうほう地域総合研究所は東邦銀行の関連機関としての位置付けであり、東邦銀行および東邦銀行のお客さま相互の間における利益相反のおそれのある取引等に関して、法令等に従い、お客さまの利益が不当に害されることのないように、適切に業務を遂行いたします。

また、本文書に係る調査、分析、コンサルティング業務は東邦銀行とは独立して行われるものであり、東邦銀行からの融資に関する助言を構成するものでも、資金調達を保証するものでもありません。

3. とうほう地域総合研究所の第三者性

借入人ととうほう地域総合研究所との間に利益相反が生じるような、資本関係、人的関係などの特別な利害関係はございません。

4. 本文書の著作権

本文書に関する一切の権利はとうほう地域総合研究所が保有しています。本文書の全部または一部を自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻案、頒布等を行うことは禁止します。